

来賓挨拶Ⅱ

東京都 都市整備局 技監 上野 雄一 氏

みなさんこんにちは。ただいまご紹介いただきました東京都都市整備局技監の上野でございます。エリアマネジメントシンポジウム 2017 in Tokyo の開催にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。

本日は全国エリアマネジメントネットワークの主催と京都大学経営管理大学院の共催、国土交通省の後援によりまして、シンポジウムがこのような盛大に開催されましたことに心よりお慶び申し上げます。また、お招きいただきまして大変ありがとうございます。

全国的には人口減少時代に入りまして、市街地の衰退、都市機能の維持等が大きな課題となっております。東京でも長期的にはそういった課題が顕在化することが見込まれておるところでございまして、都市を持続的に発展させる上で集約型の地域構造への再編などに加えまして、地域の方々が主体となって地域の価値を高めていくことが一層重要となっております。

こうした中で小林会長をはじめ、各地でまちづくりに取り組んでおられます皆様のご尽力によりまして、全国エリアマネジメントネットワークが昨年 7 月に設立され、精力的に活動されておられることを大変意義深いことだと感じております。東京都も設立当初からオブザーバーとして参加させていただいております。本日のシンポジウムを通じまして官民の連携が一層緊密なものとなり、皆様の取り組みの一層の推進に繋げていただくことを期待しております。

ここで、東京都のことを若干ご紹介させていただきます。東京都は平成 15 年に東京のしゃれた街並みづくり推進条例を施行いたしまして、まちづくり団体の登録制度により公開空地の活用について規制緩和を実施する等、地域のまちづくり活動を後押ししてまいりました。現在では 57 の団体にご登録いただきまして創意工夫しながら様々な活動に取り組んでいただいているところでございます。

また、大手町丸の内有楽町地区などでは国家戦略特別区域における道路法の特例措置を活用したイベントが行われております。これらは街に新たな賑わいを創出し、魅力ある東京づくりに寄与するものと受け止めております。さらに、今月 1 日に都市づくりのグランドデザインというものを策定、公表いたしました。これにより 2040 年代の目指すべき都市像とその実現方策をお示したところでございます。

これは東京都の都市計画審議会において、保井副会長にもメンバーになっていただきまして、ご審議いただいた答申を踏まえて行政計画として取りまとめたものでございます。これにより、例えば水辺のオープンスペースを活用したエリアマネジメント活動への支援を行っていくとか、公開空地と公共空間の一体的な活用を推進していくということを行うとともに、本日のシンポジウムのテーマの一つでございます BID につきましても、東京の特

性を踏まえた、いわば東京版の BID 制度について検討を進めることと致しております。

東京都といたしましては、地域の魅力や価値の向上に向けましてエリアマネジメントを促進できますよう、引き続き様々な検討を行うとともに環境整備を進めまして、関係の皆様のご取り組みを支援して参りたいと考えております。

最後に全国エリアマネジメントネットワークのますますのご発展、本日ここにおいでの皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきますと思います。